

夢の設計図

やりたい仕事や実現したい夢 その仕事や夢を選んだ理由

指令管制員

一番に人の命を助きたいから。

その仕事や夢を実現するために必要な条件(資格など)や力、お金はなんだろう
消防職員採用試験に合格、体力、専門知識、言語(英語)、判断力、
対応力、マルチタスク力、勉強道具の費用、道具の費用

| 年齢 | 必要な能力を身につけるためにやること |
|---------|--|
| 12歳 小学校 | 色々なことに挑戦したり沢山の人のことに関わる。そして消防士のことを調べたりして消防士のことについて知る。 |
| 13歳 中学校 | リーダーシップを持って行動する。一つ一つのことに責任を持ち、冷静になって物事を考えるようになる。そろそろ指令管制員になるための勉強を始める。 |
| 16歳 高校 | 消防士のしかくを取るために体力をつける。そして人前でも恥ずかしがらずにしゃべれるようになる。 |
| 19歳 大学 | 京都文京大学に入り消防士になるための勉強をする。 |
| 23歳 | 消防職員採用試験に合格し、消防学校に入隊。 |
| 24歳 | 消防隊員になり現場経験をつむ。 |
| 29歳 | 指令管制員になる。 |
| 31歳 | 消防副士長になる。 |
| 35歳 | 消防士長になる。 |
| 43歳 | 消防司令長になる。 |

仕事以外であなたが大人になったらやってみたいこと、実現したいこと
世界旅行をしてみたい。定年退職したあとに気力があればヨーロッパとかロンドンとか気になるところに全部いきたい。

指令管制員

大阪教育大学附属天王寺小学校 五年 棚橋 乃の花

一つの映像が私の心を揺さぶった。私の祖父がある病院に入院した。入院を知った私は一瞬驚くも「まあ大丈夫なんじゃないの。」という軽い思いで受け取った。だが、病名を知ったとき少し驚いた。私でも知ってる名前だったからだ。この出来事があったから誰かを助け、笑顔にさせたいという思いがより一層増えたと感じた。

ちなみに、皆さんは人を助けたいと思ったことは一度でもあるだろうか。正直一日一回感じてます！という人はめったにいないだろう。その例として、私もあの件以来一度も感じていない。だからといってあの時感じた思いを忘れてしまっただけではない。むしろ今でも心に刻まれている。しかし、この思いが届くかどうか、私は現実を知らされることになる。私は最近ハマっている著者の本を一気読みしていた。少し目が疲れていたの

休憩がてらに寝ようかどうか迷っていた。そうすると私の目に一つの映像が映った。「指令管制員」その言葉を聞いて私は驚いた。なぜなら、見たこともない制服を着て、マイクを頭につけて誰かと話しているのだ。はじめはコールセンターかなにかの仕事なのかなと思ったが、名前からしてそうではなさそうだった。私は指令管制員が気になり、その番組を最後まで見た。見て分かったことは一つ、指令管制員とは一一九番通報を受け、各消防隊に出動命令を出す、そういう仕事だということ。正直私は一一九番通報を受ける人は救急隊員なのかなと思っていたのでまさか消防隊だなんて思ってもいなかった。そこから私は指令管制員がどんな役に立つのか、どういう意味があるのか、仕事柄が気になり指令管制員を調べることにした。調べていくうちに分かったことだが、指令管制員は消防士の資格、

そして消防学校に入隊しないといけないということだ。つまり誰でもなれるわけではない(当たり前だけど)。でもそのおかげでやってみたいという気持ちが増えて将来の夢として目指すことにした。もともと指令管制員になりたいという気持ちは増えたものの、現実には引き戻されてしまった。必要とされている体力、コミュニケーション能力、マルチタスク力、そのほかあらゆる全てが少し欠けている気がした。もう無理だ。諦めよう、そう思った矢先、私に転機が訪れた。「ああー疲れた。テレビ見よつと」そして電源ボタンを押し、録画面面を開いた。そうすると「一一九エマージェンシーコール」というドラマが映った。気になり再生してみると指令管制員が舞台のドラマだった。2ヶ月後そのドラマを見終わり気づいた。指令管制員は人の命を助ける最前線に立ち活躍し続けている。私もそんな人の命を助け輝く指令管制員になりたい。

*こちらは、小学生『夢をかなえる』作文コンクールの「ライフプランシート」としても使えます。